

資料 3 - 4

# 穴道湖毎週調査結果概要について

•湖心

保健環境科学研究所

# 方法

**調査期間**: 2010年7月1日～2011年6月27日まで

**調査頻度**: 週一回ずつ、合計53回

**調査地点**: 宍道湖湖心

**現場調査**:

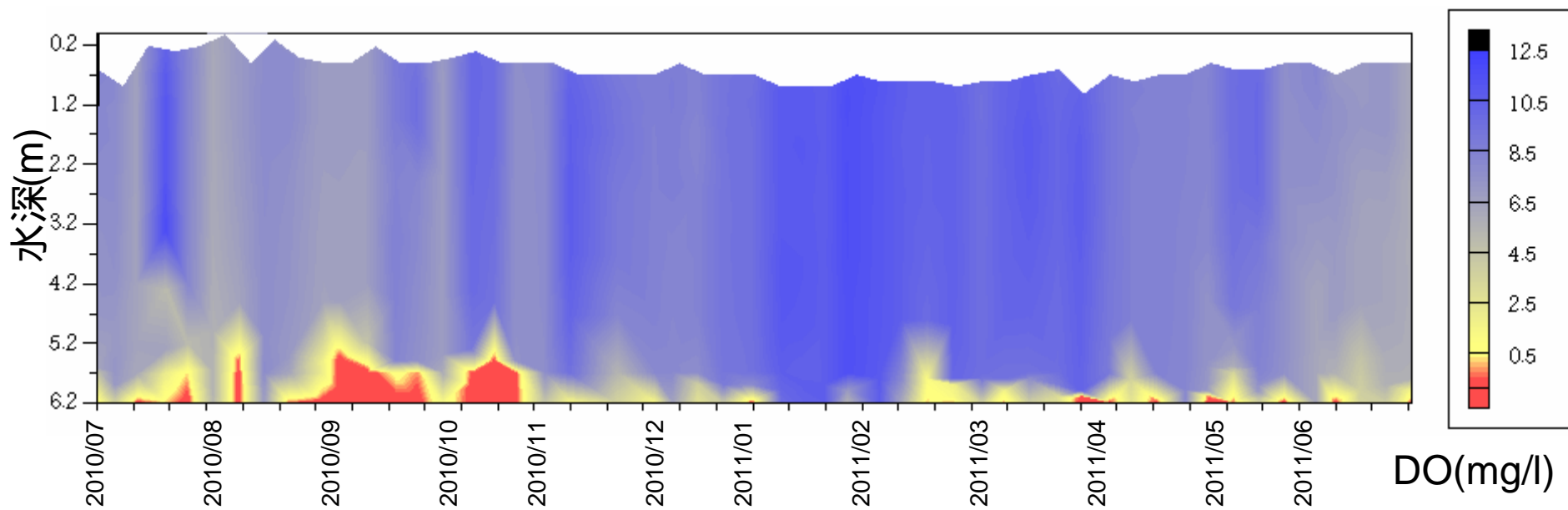
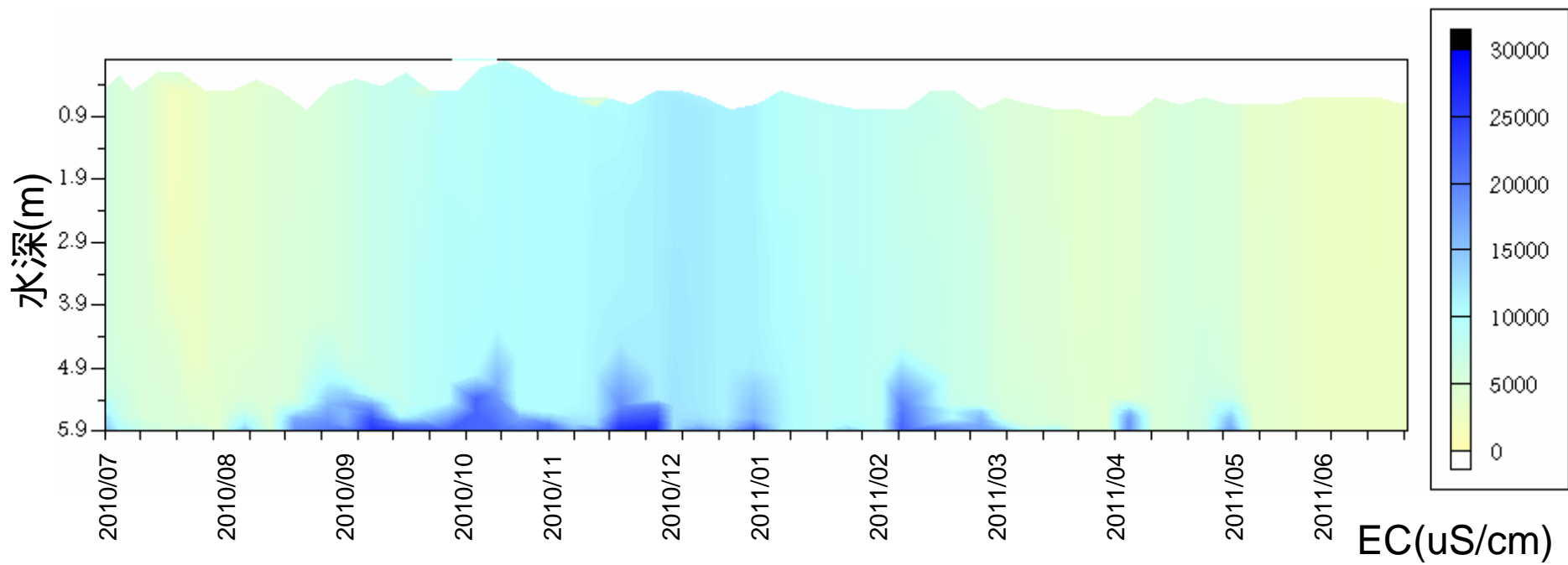
**水温・電気伝導度** STDを用いて10cm間隔で鉛直測定

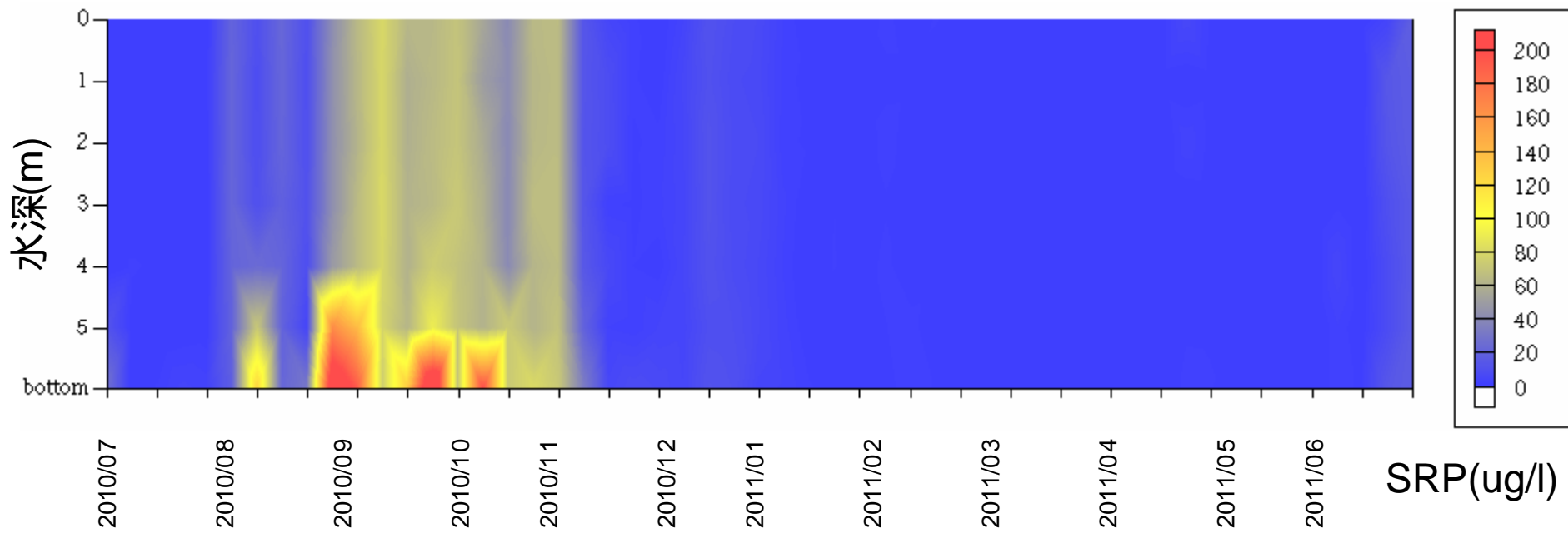
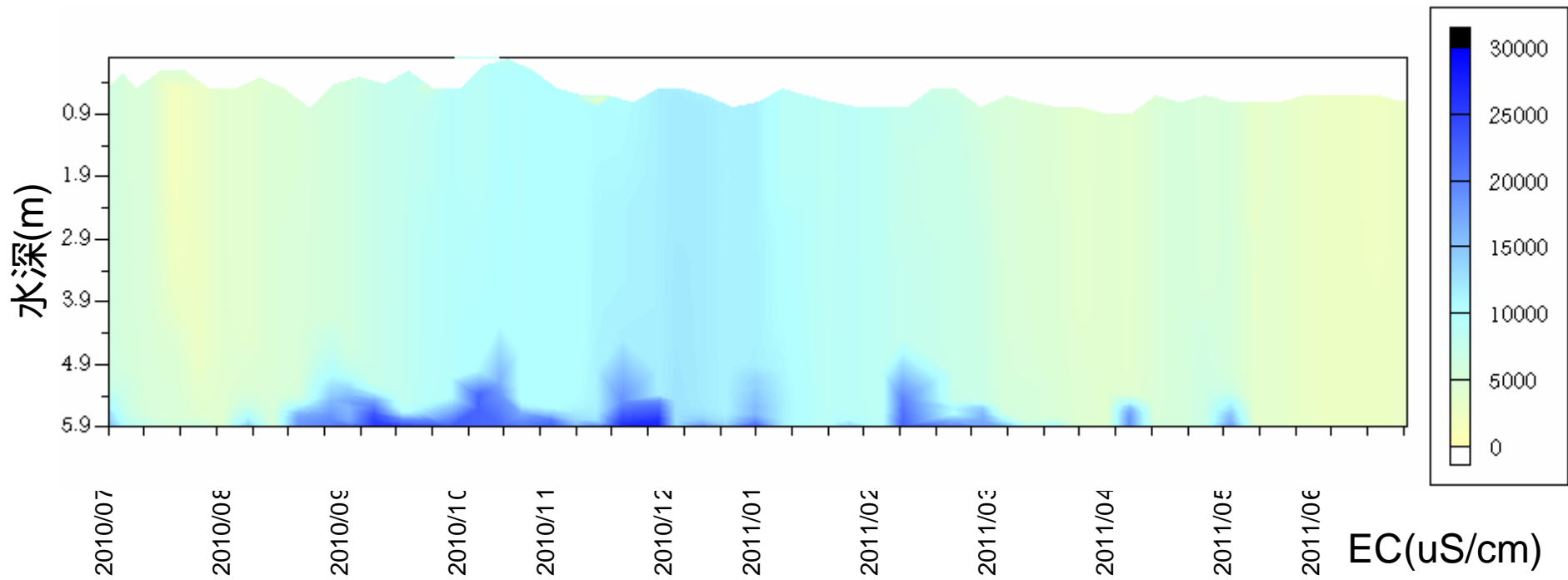
**溶存酸素濃度** 水深1mごとと下層から0.5m上及び堆積物直上で測定

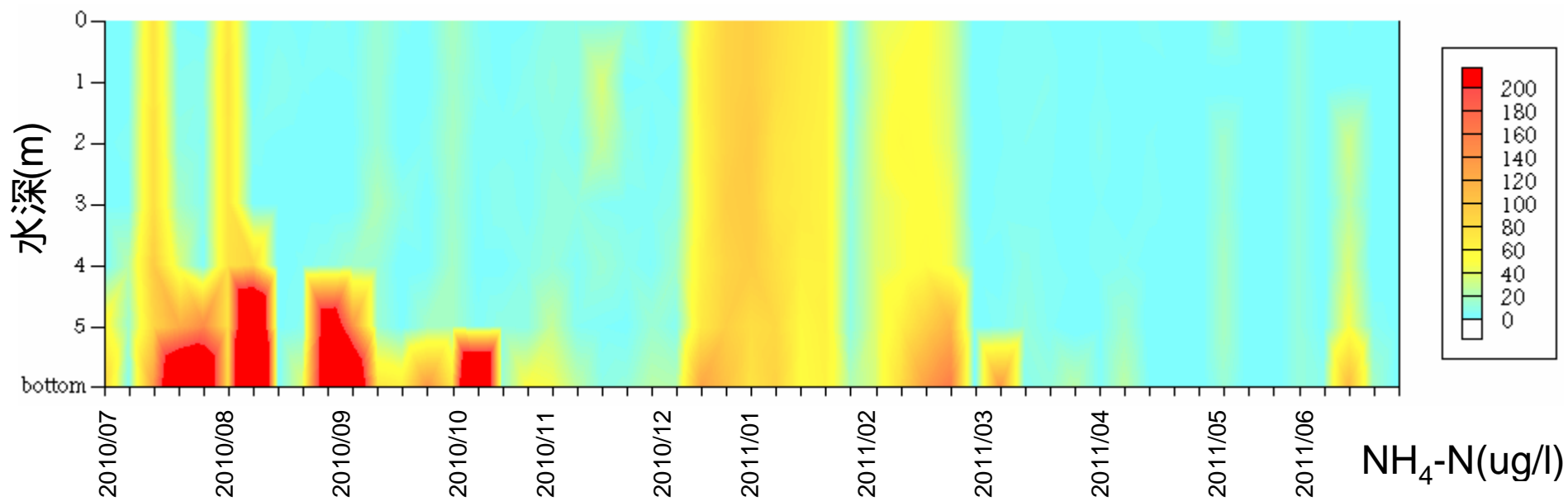
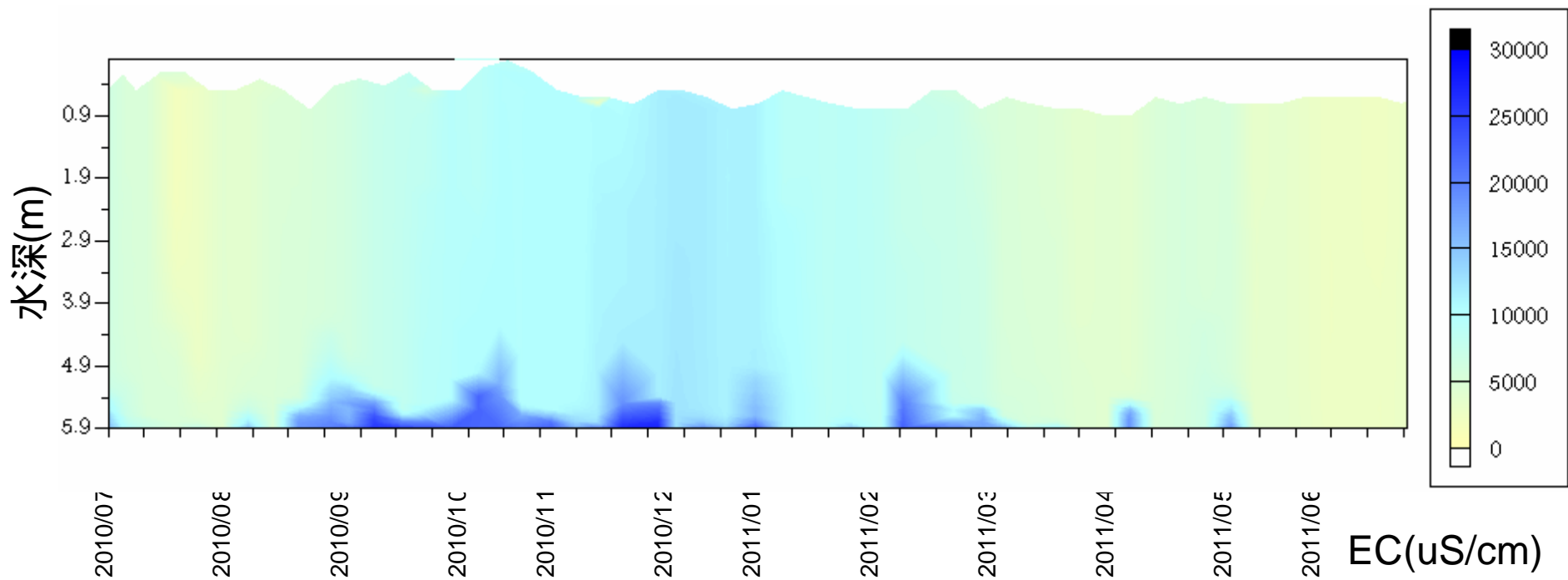
**採水**: 表層から1mピッチで湖底から0.5mまで

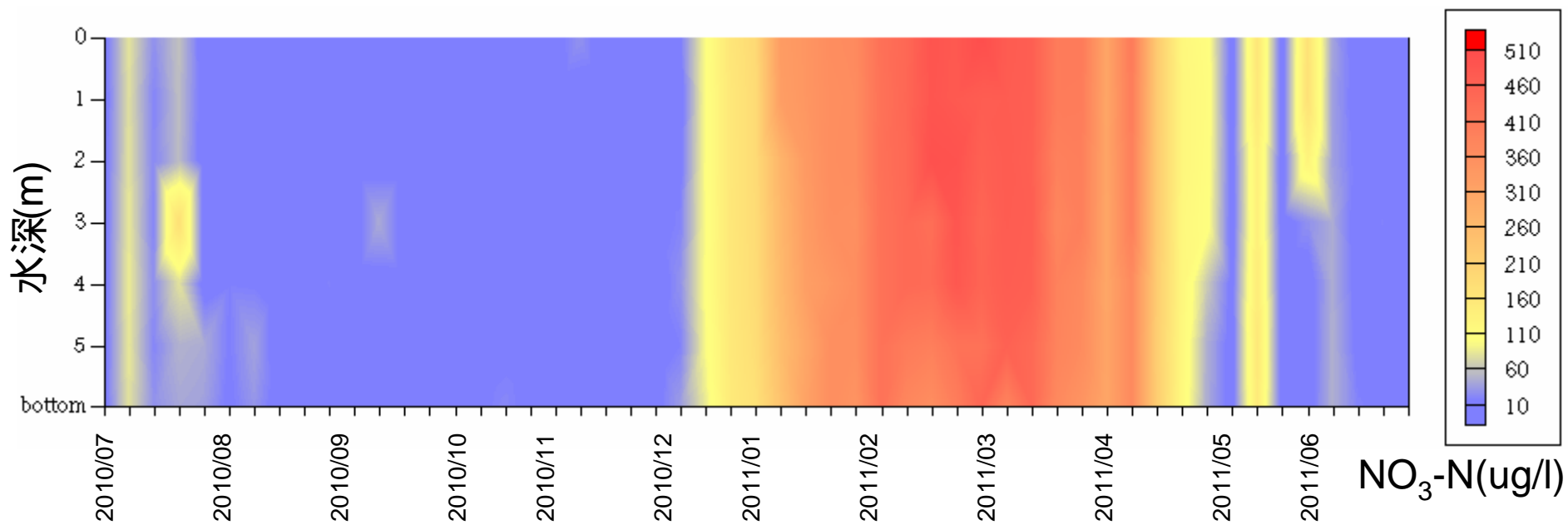
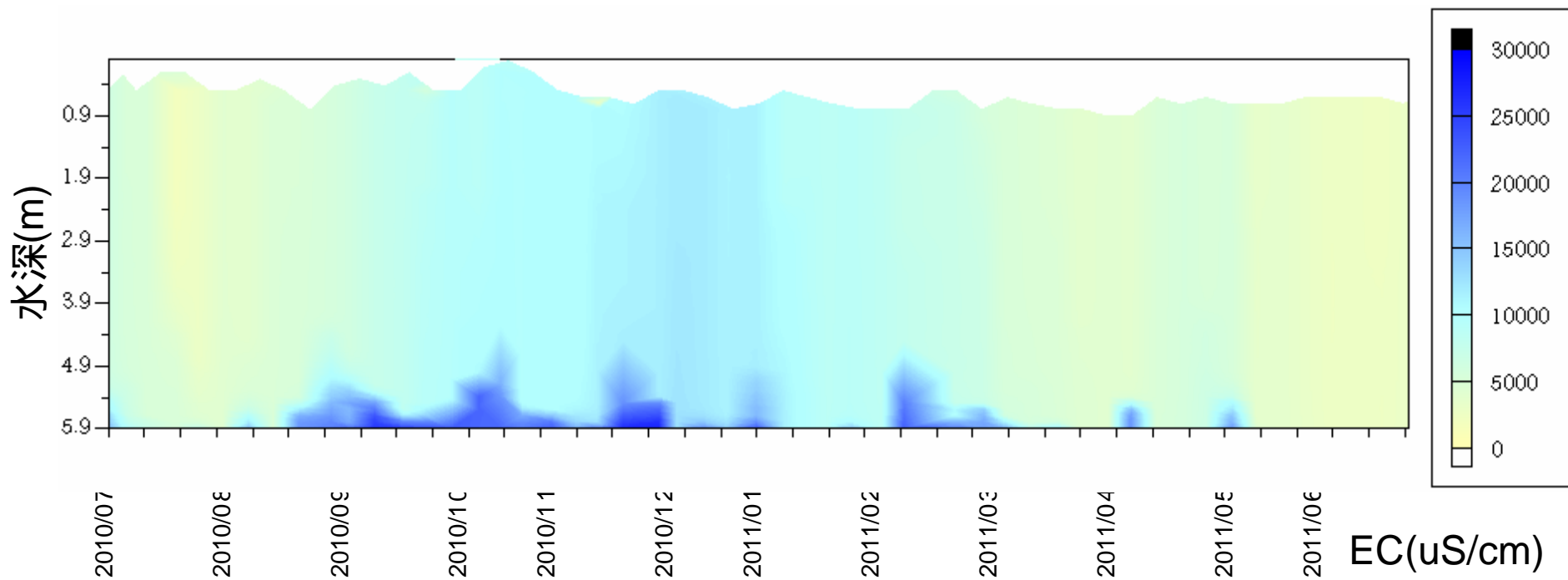
**分析項目**: 通常行う項目をすべて行った。

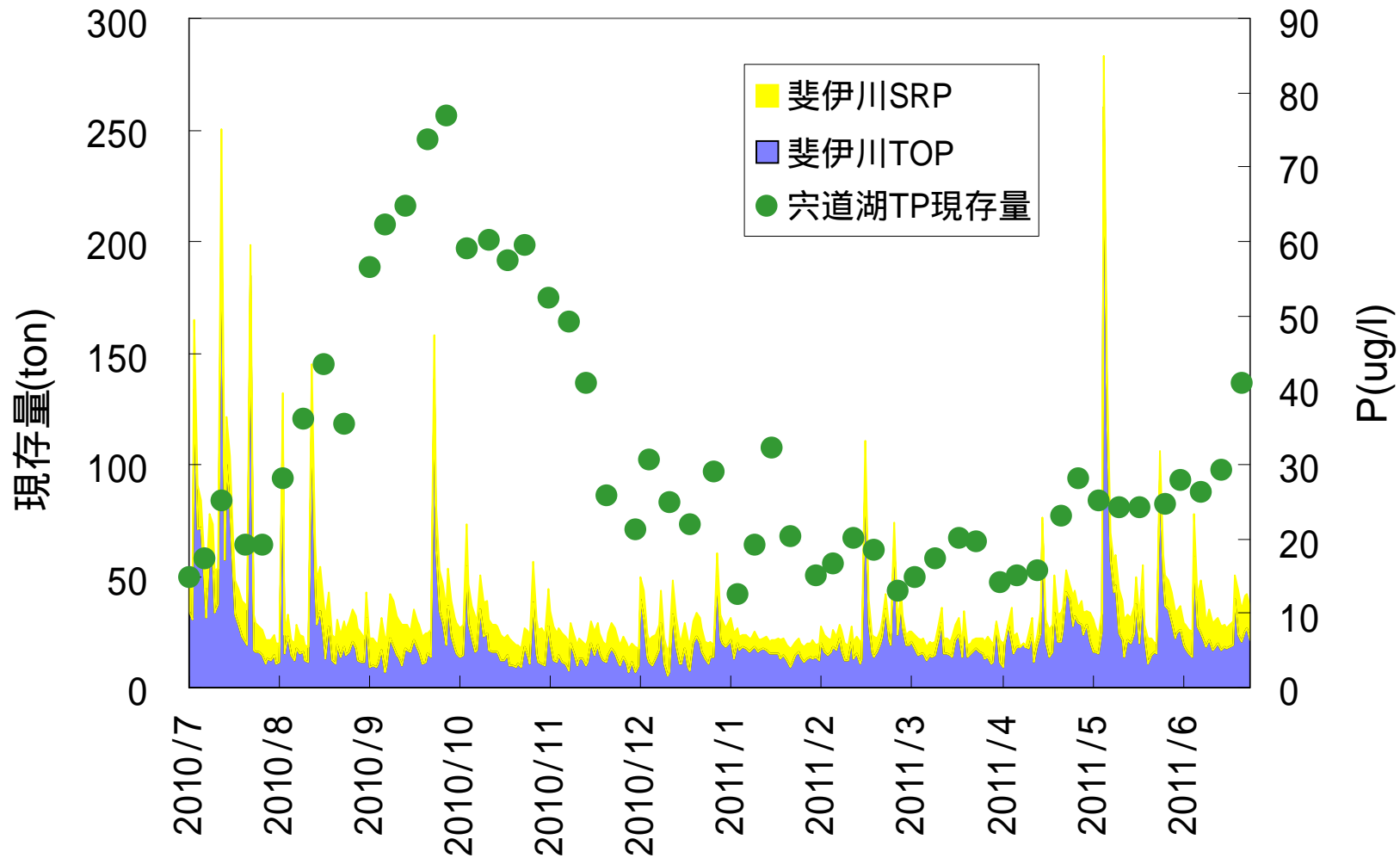
**現存量の計算**: 水深0.5mまでを表層、水深0.5mから1.5mまでを1m、水深1.5mから2.5mまでを2m、2.5mから3.5mまでを3m、3.5mから4.5mまでを4m、4.5mから湖底上0.5mまでを5m、それ以下を湖底上0.5mの採水・分析結果を用いて計算を行った。

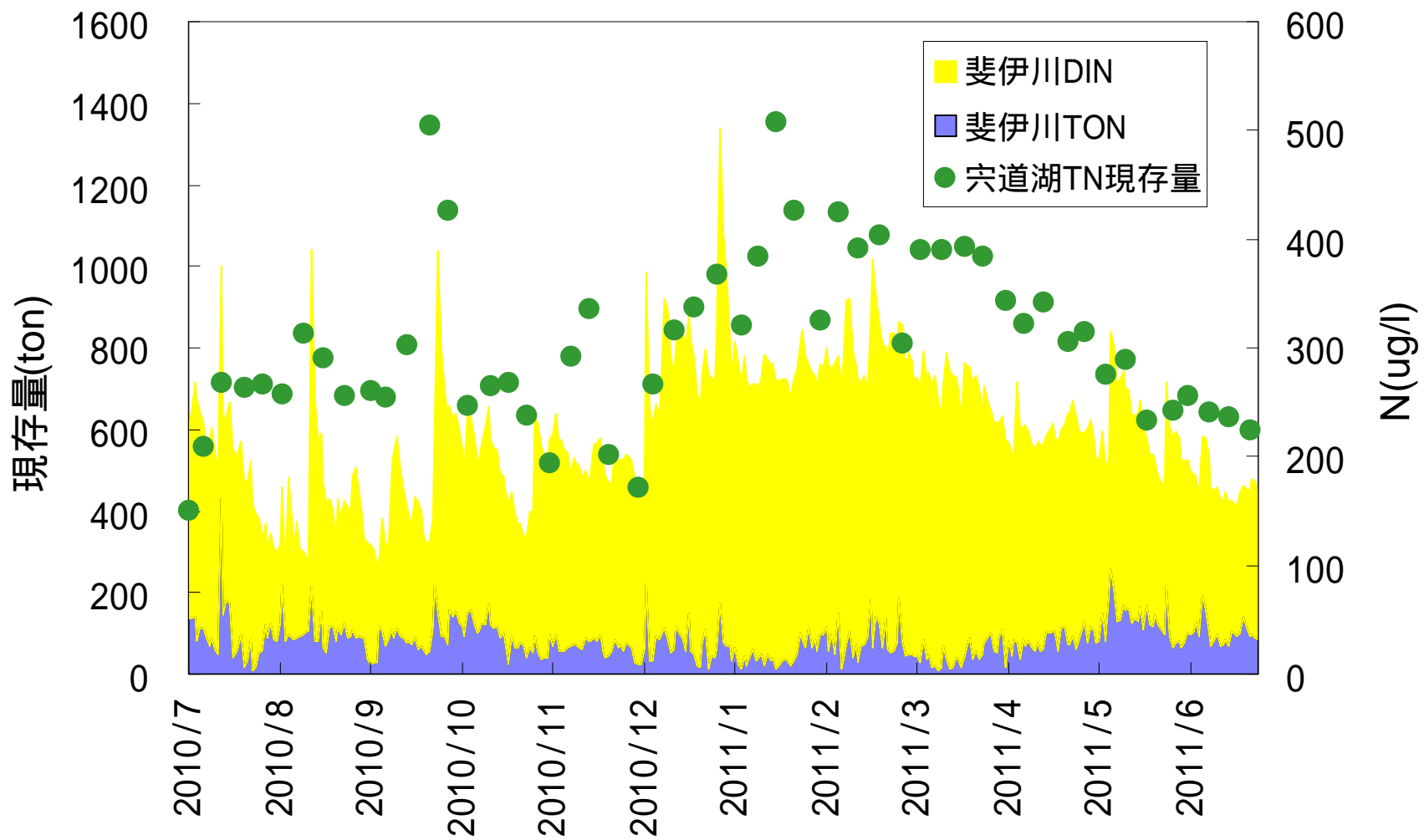














## まとめ

- ・堆積物直上の貧酸素化に伴うSRPの溶出を確認
- ・夏季において堆積物からのアンモニア態窒素の溶出による湖内現存量の増加は確認できず
- ・溶出したSRPの流出or再度湖内で沈降する量を流量データを用いて定量する必要がある